

学校・家庭アンケートの結果の考察(H26年度)

平成 27 年 3 月

保護者の皆様には学校・家庭アンケートにご協力いただき有難うございました。保護者アンケートも児童アンケートも、全体に肯定的な回答が8割を超えているものが多く、概ね良好な結果でした。以下、特に顕著な項目について考察をまとめたいと思います。

保護者アンケートでは、「家庭では、子どもに朝ごはんは必ず食べさせている」「家庭では、子どもが話しかけてきたとき、聞いてあげるようにしている」「家庭では、社会のルールを子どもが理解できるように教えている」「家庭では、子どもの発達年齢に応じて、家に帰る時間や寝る時間を決めるなど、ルールを作っている」などの項目で 90%を超える結果となっています。これは各家庭で意識的によく取り組んでいただいております、有難いことだと感謝しています。

読書については、保護者アンケートの結果では芳しい結果ではありませんが、児童アンケートでは読書時間や読書冊数が増えてきていると回答する割合が比較的高く出ています。お家ではあまり本を読んでいないのかもしれませんが、学校では図書館司書や図書ボランティアのご協力もいただきながら、読書活動の活性化に取り組んだ今年度の成果であると思っています。

「学校で火事や地震が起こった時には、どうしたらよいか分かっている」という項目は 95%を上回る高い数値となっています。これは、日頃の避難訓練や引き渡し訓練などを丁寧に行っている結果だと思っています。

また、「授業中、先生は分かりやすく教えてくれている」の項目も 95%前後の高い数値になっています。これは習熟度別学習などの少人数授業の成果だと捉えています。また、「分かった」という気づきを大切に、考え方をノートに書かせるなどのノート指導を丁寧に行ったことも要因としてあげられます。

しかし、「授業で分からないことについて、先生に質問しやすい」の項目は比較的低い結果になっています。子どもたちのつまづきや理解できていない点について、指導者が的確に把握しフォローできるよう授業改善を図っていきたいと思います。

気になるのは、高学年での「自分の身近には、いじめはない」と「睡眠時間は十分とっている」の項目が、低学年に比べて低くなっている点です。最近、スマートフォンなどでラインを使う児童が増えてきています。場合によっては、ラインで悪口を流したりして、人間関係のトラブルやいじめ問題につながるということも起こっているようです。また、睡眠時間の短さはスマートフォンとも関係がありそうです。今後は、インターネットなどのマナーを丁寧に指導するとともに、児童の基本的な生活習慣にも注意が必要です。各ご家庭の協力もいただきながら、健やかな子どもたちの育成に努めてまいりたいと思います。